

雷に注意

1.

雷が発生しやすい気象条件

積乱雲の発生する7～8月が最も多く、落雷の70%は午後2時～6時に発生する。

強い日射しがあること。

上空に寒気が入っていること・・・前日に雷があった時、寒冷前線が通過した後。

雷3日・・・1度流れ込んだ寒気の影響は3日続くので注意。

空気が湿っていること・・・朝から湿気が多いと感じた時、麓の音が聞こえる時。

朝から近くで雷が鳴っている時は近くに集中豪雨が起きている証拠・・・沢などに入らないように注意。

「所により雷」「雷が伴う天気」などの天気予報・・・山では雷の確率が高い。

2.

落雷のリスクが高いところ

裸尾根など高いところ、50m四方何も無いところ。

孤立した木、岩、茂みの下

テントの中

水辺

3. 安全な場所

避雷針のある山小屋の中。

窓を閉めた車の中。

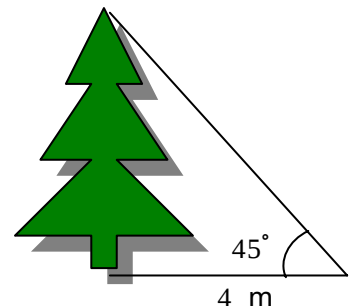
ある程度深く乾いた岩穴の中。

大木の頂上から45%以内で4m以上離れた場所。

4. 落雷の事前の兆候

毛が逆立つ、焼け焦げる異臭、青白い火花が散る。

身につけている金具類がかすかに振動する。



5. 人(に)落ちたら

落雷すると頭部から目、口、頭皮などを通して脳の中枢に入り呼吸や心臓を止めてしまうことがある。

心肺停止状態

心肺蘇生で助かる。

心臓停止 する	放置すると3分経つと50%、8分経つと100%死亡する
呼吸停止 死亡する	放置すると10分立つと50%、20分経つと100%死亡する

意識のある人が手分けをして冷静に行動する

最初に行うこと

○ 大きな声をかけたり、肩をゆすったりして意識があるかどうかを調べる。

○ 「意識なし」と判断したら

○ 助けを呼ぶ・・・携帯電話で警察へ救助を連絡。麓、山小屋へ救助を頼みに行く。。

○ 救助が来るまで心肺蘇生を行う。

・ 人工呼吸・・・鼻をつまみ空気が漏れないようにして、ゆ

っくり2回吹き込む。量は6ミリリットル。これを1秒かけて吹き込み5秒かけて1回行う。呼吸しているかを確認する。

・ 心臓マッサージ・・・手の置く場所は胸の中央部で左右

の乳頭を結んだ高さ。両手の付け根を重ね肘をまっすぐ伸ばして体重をかけ、3.5～5cm垂直に圧迫する。速度は1分間に100回の速さ。

・ 人工呼吸と心臓マッサーを交互に行う・・・30回の

心臓マッサージと2回の人工呼吸のサイクルを繰り返す。

6 落雷から身を守る

ラジオなどの雑音で雷の発生をキャッチする。

雷が発生する時間帯は裸尾根など避難場所のないところは避ける。・・・・・・早朝出発、午後 早めに下山または山小屋。

山行中、雷が聞こえたらすぐ安全な場所へ避難。

雷の前兆・・・・・・空に黒い雲が広がる。突風が吹く。雨あられが降り始める。・・・・・・但し、1500m以上の山では雷雲の中にいることになり前兆なく突然落雷することがある。

グループ山行では雷に対する責任者を決めておく。

グループ山行で、雷が近くで鳴り出したら、互いに見える範囲内で40～50mの距離を開けてリスクを分散する。

雷と次の雷の間隔は10秒～1分・・・・・・この間に避難する。

雷が収まって30分間は充分注意する。

雷の近さを測定する。・・・・・・音は秒速340m。 （上記資料は「山と溪

谷社」の記事を参考にいたしました）

ここまではこもれば 2007年6月号から転載しました。

これより管理人「山野仙人」が記載しました。御意見や誤りがありましたらメールで下記までお知らせください。

sennin336@msn.com

また、この記事の引用によって、いかなる損害が発生してもその責任を負いません。

雷の危険性（雷と金属について）

一般に金属を所持していると危険であると認識されてますが、これは正しくありません、誤りと言ってもいいでしょう。「雷博士」の異名を持つ埼玉大学教授（当時）の北川信一郎氏も当初「金属の所持は危険」と言っておられましたが、後に実験方法が不適切であったためそのような結論になった、正しくは「金属の所持によって危険性が増加することは無い」と訂正されています。

そもそも雷は1～10億ボルトという高電圧であり、通常絶縁体として扱われる空気層を絶縁破壊して～5kmもの距離伝わってくるものです。人間も金属も雷から見ると「良導体」なのです。人体と金属の導電性の差が問題となるのは100～1000ボルトといった電圧のときです。ただし、雷は尖った物に落ちやすく、金属製品にはそのような形状のものが多くを考えると、「形状効果」で「金属は危険」と言えるでしょう。釣竿なども危険ですよ～～

以下に関連記事の URL を載せておきます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%90%BD%E9%9B%B7>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%B7>

<http://komiminews.net/kaminari.html>

http://yoruhary.cocolog-nifty.com/blog/2007/06/post_efcc.html